



Title	<翻訳>トマス・キッド『ソリマンとパーセダの悲劇』翻訳 (1)
Author(s)	中村, 未樹
Citation	大阪大学英米研究. 2026, 50, p. 45-81
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/104512">https://doi.org/10.18910/104512</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# トマス・キッド

## 『ソリマンとパーセダの悲劇』 翻訳 (1)

中村 未樹

### はじめに

以下に掲載するのはトマス・キッド (Thomas Kyd) 作『ソリマンとパーセダの悲劇』 (*The Tragedy of Soliman and Perseda*) の第1幕～第2幕の日本語訳である。第3幕～第5幕の日本語訳は『英米研究』の次号に掲載する予定である。本作品の日本語翻訳はこれまで行われていない。翻訳にあたって底本としたのは次の版である。

*The Tragedy of Soliman and Perseda*, ed. Matthew Dimmock, *The Collected Works of Thomas Kyd*, vol.1, general editor, Sir Brian Vickers, associate editor, Darren Freebury-Jones, vol.1, D. S. Brewer, 2024, pp.353-433.

底本にはないが、場面において必要であると思われるト書きを角括弧に入れて挿入している。紙面の都合上、原典における韻文を考慮した改行は行っていない。

翻訳において、以下の版とそのイントロダクション、及び研究書も参照した。

### エディション

・ *The Tragedy of Soliman and Perseda, Three Romances of Eastern Conquest*, edited by Ladan Niayesh, Manchester UP, 2018, pp.123-200.

・ *Soliman and Perseda (1592/93)* (Malone Society reprints, v.181), edited by

Lukas Erne, and checked by G. R. Proudfoot and H. R. Woudhuysen, Manchester UP, 2014.

・ *The Tragedye of Solyman and Perseda*, edited by John J. Murray, Garland Publishers, 1991.

・ *The Tragedie of Soliman and Perseda, The Works of Thomas Kyd*, edited by Frederick S. Boas, the Clarendon Press, 1901, pp.164-229.

### イントロダクション

・ Dimmock, Matthew. *Soliman and Perseda* Introduction, *The Collected Works of Thomas Kyd*, vol.1, general editor, Sir Brian Vickers, associate editor, Darren Freebury-Jones, vol.1, D. S. Brewer, 2024, pp.335-52.

・ Niayesh, Ladan. Introduction. *The Tragedy of Soliman and Perseda, Three Romances of Eastern Conquest*, edited by Ladan Niayesh, Manchester UP, 2018, pp.1-49.

・ Erne, Lukas. Introduction. *Soliman and Perseda (1592/93)* (Malone Society reprints, v.181). Edited by Lukas Erne, and checked by G. R. Proudfoot and H. R. Woudhuysen, Manchester UP, 2014, pp.vii-xxix.

・ Murray, John J. Introduction. *The Tragedye of Solyman and Perseda*, edited by John J. Murray, Garland Publishers, 1991, pp.vii-xxxviii.

・ Boas, Frederick S., *The Works of Thomas Kyd*, edited by Frederick S. Boas, the Clarendon Press, 1901, pp.xiii-cvii.

### 研究書

・ Vickers, Brian. *Thomas Kyd: a Dramatist Restored*. Princeton UP, 2024.

・ Darren Freebury-Jones, Darren. *Shakespeare's Tutor: The Influence of Thomas Kyd*. Manchester UP, 2022.

・ Lukas Erne, *Beyond The Spanish Tragedy: A Study of the Works of Thomas Kyd*. Manchester UP, 2001.

・ Arthur Freeman, *Thomas Kyd: Facts and Problems*. Clarendon Press, 1967.

『ソリマンとパーセダの悲劇』は 1592 年 11 月 20 日に書籍商組合登録簿に登録された。出版者はロンドンの書籍商 Edward White である。ホワイトはキッドの『スペインの悲劇』の出版にも携わっている。印刷業者は Edward Allde である。この四折本の後、1599 年にも四折本が出された。

本書の制作年代については以下のとおり意見が分かれている：1589 年 (Dimmock 342, Niayesh 29)、1588 年か 1589 年 (Erne, *Beyond The Spanish Tragedy* 160)、1587 年及び 1591 年 (Murray vii)、1588 年かその数年後 (Boas lvii)。

本作品の作者としてキッドの名前を挙げたのは Thomas Hawkins が最初である (1773 年)。現在ではキッドはこの悲劇の作者としてほぼ認められている。

---

ソリマンとパーセダの悲劇

愛の不変性、運命の変化、死の勝利が

明らかにされる

ロンドン

エドワード・ホワイトのために

エドワード・オールドによって印刷される

聖ポール教会の北の小口

銃の看板の下で販売される

登場人物

[序詞役]

愛

運命

死

[ロードス島の宮廷]

フィリッポ　ロードス島の総督

キプロスの王子　その義理の息子

エラストス　ロードス島の騎士、パーセダの恋人

パーセダ　ロードス島の女性

ファーディナンド　フィリッポの縁者、ルーシーナの恋人

ルーシーナ　ロードス島の女性

ゲルピオ　エラストスの友人

ジュリオ　エラストスの友人

ピストン　エラストスの召使

[トーナメントに参加する騎士]

バシリスコ　ほら吹き of 騎士

イングランド人　イングランド of 騎士

フランス人　フランス of 騎士

スペイン人　スペイン of 騎士

ブルーザー　トルコ of 騎士

[トルコの宮廷]

ソリマン　トルコ of 皇帝

ハレブ　ソリマン of 弟

アムラス　ソリマン of 弟

トルコ of 司令官

証人二人

[その他]

使者 騎士たち 小姓 触れ役 鼓手二人 兵士たち 隊長 イエニチェリ

---

## 1. プロローグ

愛、運命、死が登場。

愛 なに、死と運命は愛の行く手を遮ろうというのか。

運命 愛とは運命の操るテニスボールに過ぎないのではないか？

死 おまえたちはどちらも死には逆らえない。ここを去るように。この場所  
でメルポメネ<sup>1</sup>は悲劇を語ろうとしている、悲劇とは死の成す業ではない  
のか？怒れる詩神は涙の海と大いなる嘆きをもたらす陰鬱な話をするおつ  
もりだ。詩神はその憂鬱で残忍な物語をペンでしたためたが、これから記  
録として語られるのだ。

愛 勇敢なエラスタスと彼のロードス島の女性の物語を愛が知らないと思っ  
ているのか。彼らを愛し合わせたのは私だ。だから私はこの悲劇の序詞役  
にふさわしい者としてここに来ている。私がいなかったら、彼らはあれほ  
ど早く死ぬことはなかったであろう。

死 私がいなかったら、彼らはあれほど早く死ぬことはなかったであろう。

運命 いや、お前たちはどちらも間違えている。私こそが二人の長い愛を突  
然憎しみへと変え、憎しみを再び愛に変え、さらに彼らを愛から死へと追  
いやったのではないのか。運命が序詞役だ。愛と死は立ち去るがいい。

死 運命よ、お前に言おう、そして淫らな愛、お前にも——私はこの悲劇の  
教訓を示すまで暗黒の冥界に帰りはしない。この悲劇で最も大きな役割を  
果たしたのは私の持つ黒い槍<sup>2</sup>なのだから。

愛 私も輝ける世界へと戻ったりはしない——愛がこの悲劇にどう関わったか、序詞役として君たちと世界に知らせるまでは。

運命 運命は変化を好むものだがここに留まろう、運命の車輪を回すのも止めよう——この悲劇に私がどう関わっているか明らかにするまでは。愛や死よりも運命が多くを成したのだ。

愛 では、何故我々はここに留まっている？役者たちを登場させよう、そして良い頃合いに戻ってこよう。(全員退場)

## 第 1 幕第 1 場

エラスタスとパーセダ登場。

エラスタス パーセダ、君がはっきりしてくれないから、僕はマストを失くした船のように海上をさまよい、自分の思う方向に動けないままだのか。僕の愛は子供の頃から続くもの、そして成長してより大きくなった。パーセダが外で遊んでいる時、彼女のエラスタスはパーセダの様子を見守っていたのではないかと。君が日差しの中に座って友人と刺繍をしている時、僕は傍で君の白い手の器用な動きを見つめ、その手を様々な素晴らしいものに譬えていたのではないかと。あなたの歌う曲を耳にしたら、僕はその調べに合う詩を作ってパーセダを表したのではないかと。君が祭日に教会に行ったら、僕は君に付き従い、獲物を狙う鷹のように機会を窺って待っていたのではないかと。君がいない時、僕がどれほど嘆いたことか、自分の思いが本当であるように感じながら。これが僕の青春だ。大人の男性になってからも、自分の心が変わらず忠実であることを君に伝えてきた。だから、パーセダ、恥ずかしがらないでくれ、すぐに愛は冷めるがせっかちな男たちに女性がそうふるまうように。僕の愛はずっと前からのもの、他人行儀なことはされないはず。

パーセダ エラスタス、あなたのパーセダはよく分かっています。あなたが自分のものにしたいと思っている女性のことをエラスタスも分かっている

でしょう。

エラストス パーセダが分かっているのですから、それでよいのです。

パーセダ 機会を窺っているのですね、それなら進めてください。他は忘れましたが、要はそういうことです<sup>3</sup>。そのため、この首飾りを受け取ってください。死の床についた私の祖母がくれたものです。その時自分に誓いました——私の心が留まる岸辺を見つけるまで、この首飾りを持っていると<sup>4</sup>。私はあなたの胸の中で休むことにします——私の心を受け入れてください、あなたの心に連れ添えるように。

エラストス パーディタ、では首飾りのお返しとしてこの指輪を受け取ってください、僕の心とともに。といっても、僕の心は元よりあなたのものですから何にもなりません。裸の野蛮人が晴れた日を喜ぶよりも、死の一撃を怯えて待つ死刑囚が恩赦に喜ぶよりも、僕はこの展開を喜ぶでしょう。子供を井戸や炉端に近づけまいとする母親のように、注意してこのネックレスを保管します。甲冑の上にこの鎖を架けます。闘いが長引いて体が弱った時にこれを見れば、パーセダの名前が目に浮かび、疲れた体に新たな勇気が漲るでしょう。トリポリ<sup>5</sup> から来た血気盛んなトルコ人、その功績を称えられ黄金拍車勲章<sup>6</sup> を授けられたマルタ島の騎士、バーバリー産の馬に跨ったムーア人、高貴な戦士の風貌をした血気盛んなスペイン人、機敏なフランス人、がっしりしたデンマーク人、屈強で西洋の獅子と呼ばれるイングランドの射手など、その力を認められた戦士たちが世界の隅々から集められ、キプロスの王子の婚礼を祝うために今日、武術を競います。エラストスもその中に加わります、数多の蜂の中に紛れた虫のようなものですが、このあなたから貰った大事な首飾りを目印に見つけてください。武勇を示せたならば、日光で鏡が熱くなるように、天の太陽であるあなたから私が鏡としてその力を借りたのです。パーセダ、私はまだ無名ですが、夜になるまでにあなたの美によって私の名は知れ渡ることになるでしょう。

パーセダ 風の強い日に若枝を植えることはありません。鞭を使って若い学

生を学校に行かせたりもしません。ああ、エラストス、兜に名誉が刻まれたヨーロッパの騎士たちから名誉を奪うのは大変なことです。私の美があなたを唆して死に至らしめたりしませんように。這い上がろうとして捕まえられるなら、じっと座っていた方が良いでしょう。

エラストス 忠告は要りません、もう誓ったことですから。私の運が私の愛に相応しいものとなりますように！

パーセダ あなたの運があなたの容貌に等しいものになりますよう！それならば、エラストスは誰にも負けず生き延びます。(使者登場) 使いが呼びに来ました。伝言はわかっています、王女がお呼びですか。

使者 はい。試合場まで付き添うようにとのことです。

ピストン登場。

ピストン 僕の主人を見ませんでしたか？ここでしたか？王子と他の外国の紳士たちが皆、競技場に行かれます。あなたを待っています。

エラストス 召使に馬と棍棒を 12 本持ってくるように伝えてこい。

ピストン 馬と棍棒 24 本ですね<sup>8</sup>。(退場)

エラストス 幸運を祈ってくれ、パーセダ。時が経っても消えることのない栄光を掴みとってみせる。さもなければ、私の青春が血の中で終わりを迎えるまで。

パーセダ ギリシャ人によって傷つけられた勇敢なヘクターにアンドロマキが願ったような幸運が、初陣のエラストスに訪れますように！<sup>9</sup>息巻く騎士たちをあなたの勇気で倒してください、あなたが美德で私を征服したように。私の心からの祈りを天が聞き入れ、叶えてくれますように！（全員退場）

## 第 1 幕第 2 場

フィリッポ、キプロスの王子、バシリスコ、騎士たち登場。

フィリッポ キリスト教国、及びトルコの勇敢な騎士たち、真鍮の書物に永

遠に記される名誉を求めてここに集まった者たち——獅子の力を羊の優しさで覆い、この槍試合では友として剣を交える兄弟のように戦ってくれ。義理の息子であるキプロスの王子、ここにいる英雄たちをそれぞれの国ごとに歓迎しなさい、お前の婚礼に武術でもって花を添えるためにここに来られたのだから。

キプロスの王子 最初に、その国によって、また戦場における勇気によって称えられた名高いイングランド人——敵が迫り、あなたが馬に拍車を当てる時、あなたのモットーは何か？

イングランド人 国のためスコットランドで槍を持って戦った時、私は騎士に任じられました。フランスでは国王からその旗を奪って、私の兜にフランスの花、ユリを飾りました。機敏なアイルランドの兵とも私は戦い、その際に受けた傷がこの肌に残っています。全世界が、我が国の勇気の言葉を聞いたでしょう——聖ジョージ、イングランド、そして私にご加護を！

キプロスの王子 あなたも同じく歓迎しよう、フランスの騎士。あなたは軍事の知識で名高い。敵と遭遇した時、そのモットーは何か？

フランス人 イタリアで私は騎士になりました。鎧も着けず剣一つで私は名高いローマ人と決闘しました。彼の剣には死をもたらす毒が塗られていましたが、私を支配する星々は我が勝利を予示しました。聖デニス、フランス、そして私にご加護を！

キプロスの王子 次に、カスティリア人、あなたも歓迎しよう。他の者と同様、あなたの名声は響き渡っている。敵に初めて出会った時、あなたを勇気づける言葉は何か、スペイン人。

スペイン人 2万人のスペイン人が戦場に出た時、私は14歳で騎士となりました。そこで向こう見ずな騎馬兵が、我々の矢に対して鉄砲で立ち向かおうとしました。一度狙いを定めた後、私はその生意気な挑戦者を弓で射ました。我々が求めるのは黄金の羊毛の位階<sup>10</sup>、そして聖ジェームズ——ジェームズがスペイン人の選ぶ言葉です。

キプロスの王子 次はあなたを歓迎しよう、名高いトルコ人——あなたの信仰ではなく武術を鑑みた上で。敵に挑戦された時、戦いのモットーはなにか、勇敢なトルコ人よ。

ブルーザー 偉大なるソリマンの下、私は三つの戦場においてペルシャのソフィーと対峙し、軍の主任指揮官として無情なペルシャ人たちを剣で倒しました。アフリカの砂漠をムーア人の血で染め、三つの戦いに参加しました。アジアを席卷し、ポルトガルの領有する湾まで辿り着きました。さらにブルーザーはスペイン領に隣接する黄金の湾までトルコの勇猛な軍隊を率い、キリスト教徒たちをマホメットに屈服させました。崇拜するのはマホメットであり、彼の名において呼びます——私そしてソリマンにマホメットのご加護を！

キプロスの王子 では、バシリスコ。お前のことは知っているから形式的な挨拶は止めておこう。ドイツ生まれの騎兵であるお前は、敵と最初に出会った時、何と言うか？

バシリスコ 私は口では戦いません。これが私の女性弁士です。（彼の剣に手を添える。）

キプロスの王子 それは女性の剣なのか、バシリスコ？

バシリスコ そうです、そして私が持つ他の剣も全て。その論拠を述べましょう——女性は弱いですが、私の腕力はいかなる剣の刃も打ち壊します。それゆえ、我が腕よりも弱いこの剣は女性とみなされるべきでしょう。

キプロスの王子 わかった。それで、あなたの国を讃える言葉は何か？

バシリスコ 実のところ、この大地こそが我が国です——鳥にとって空が、赤いエラの魚にとって海がそうであるように。私の戦いを逐一記録してはいません。覚えていることといえば——低地地方でひどい干ばつがあり、太陽で草が干からびました。そこで、その土地の男の子たちを殺して、母親たちの涙で乾いた土地を潤すのが良いと思いました。子供たちは死に、女たちが泣き、草が育ちました。さもなければフリジア産の我が馬も死んでいたでしょう、国の滅亡よりもそのことを私は悲しんだでしょう。アイ

ルランドに居た時は、馬に乗って朝から晩まで 100 人のアイルランド歩兵と戦いました。馬が気を失いそうになり、喉が渴いていると推測した私は馬を降りましたが水はありません。怒った私は、馬にも乗らず、この半月刀でヘラクレスの子孫のごとく、3~4 時間の戦いに耐えました。そのうち、私の体からは汗がしたたり落ち、私の額の水を飲んで馬は渴きを癒しました。敵を征服した後の我が慈悲は戦における男らしさに負けないものです。幼子の涙を征服した町の身代金とし、そこで「情け深いアダマント」<sup>11</sup> という名を得ました。風でヴァルカンの炉の火が燃え盛るように、荒々しい言葉で私の怒りは高まります。国を持たぬ私には言語もなく、どの場所も住処であり、どの国の言葉も私は発します。王たちよ、何をお望みでしょうか。たくさん私は見てきました、そしてそれよりも多くのことを聞きました。さらに、それよりも多くのことを成したのです。手短に言えば、私に挑む者は手を振ってください、5 回ほど相手になりましょう。冗談を言うのは性に合いませんが、王子のご結婚を祝うためおとなしくしておきましょう。

フィリップ 王子は皆に感謝している。勇敢な騎士たち、馬に乗って試合場へ進むように。私はあなたがたの試合の審判となり、公平にその戦いを見守ろう。美しい女性たちも前へ、この騎士たちの立派な振る舞いを観るように。(バシリスコを除いて退場)

### 第 1 幕第 3 場

バシリスコ登場。

バシリスコ 私は憂鬱だ。恋の女神ヴィーナスの気質に私は苛まれている<sup>12</sup>。これまで私はたくさんの魅力的な女性、また貴婦人の甘い眼差しを軽蔑し、しかめ面で拒絶してきた。だが、確かに今私はあの素晴らしい彗星パーセダの輝く瞳に魅了されている。勝利の姿を彼女に見せよう、目の前で偉業を成し遂げるのだ。ああ、彼女がやってきた——男性の印のあご

髭も生やしていない若造をお供にして。

エラストス、パーセダ、ピストン登場。

エラストス 私のパーセダ——（エラストスとパーセダ退場）

バシリスコ 黙れ、青二才、その無礼な言葉は何だ。

ピストン 勘違いです、彼は暴言を吐いたりしていませんよ。

バシリスコ いいか、道化、あいつはもっとひどいことをした——あの女性を自分のものと言ったのだ。

ピストン 道化ですって？ 「即興で、ああ、花よ！」<sup>13</sup>

バシリスコ 学問のない、字も読めない田舎者め、お前はラテン語の句を罵るのか。

ピストン 魚形章にかけて、あなたはラテン語を取ってください、僕はあなたを罵りましょう<sup>14</sup>。

バシリスコ 我が怒りへの恐れもなしか？

ピストン なしとは？<sup>15</sup> それはどの言語ですか。あなたの稼業は言葉作りですね。

バシリスコ 私の稼業だと？いや、この燃え盛る怒りは愛の想いで抑えよう——美しい女性。

ピストン もう彼女は行ったよ。

バシリスコ なに、あの小僧が彼女を連れ去ったのか？あいつは私の眉間に刻まれた怒りに気が付いて、時を見計らって逃げ出したのだ。だが、復讐のため後を追おう。

ピストン 聞いてください。行かれる前に話さなければいけません。

ピストンはバシリスコの背中に乗り、彼を地面に倒す。

バシリスコ おい、お前が高貴な者であるならば、私の前に出る。

ピストン いいや、お前が本当の戦士であるのなら、私の下から這い出てこい。

バシリスコ なに、私をタイフオンにして、ペリオン山とオッサ山を担がせようというのか<sup>16</sup>。

ピストン タイフオンなどと言うな、この短剣にかけて誓え——私がいいと言うまでここにいろ、そして試合を見るのだ。

バシリスコ 我が栄光を貶めようというのか。

ピストン そんなものは気にしていない——誓わないのか？

バシリスコ わかった、誓う、誓うから。(ピストンの短剣に対して誓いの言葉を述べる。)

ピストン この刃にかけて——

バシリスコ この刃にかけて——

ピストン 私、先述したバシリスコは——

バシリスコ 私、先述したバシリスコは——騎士だ、おい、騎士、騎士<sup>17</sup>。

ピストン ごろつきだ、おい、ごろつき、ごろつき——ピストンの傍を離れません。

バシリスコ ピストンの傍を離れません。

ピストン ピストンから許しが得られぬ限り。

バシリスコ ピストンから許しが無い限り、得られぬ限り、そして与えられない限り。

ピストン では、人生を楽しめ。解放しよう。

バシリスコ お前のおかげで人生を楽しもう。立ち上がった——俺は誓いを守る質だからな。

ピストン さあ、どうする？ 梯子を上って槍試合を見ようか。

二人は階段を上る。舞台袖で第一試合を告げる喇叭が鳴る。

バシリスコ 犬に吠えられるよりは、懐かれるほうがいい<sup>18</sup>。

ピストン この試合はどう思う？

バシリスコ 槍を高く構えすぎだ、馬の扱いも悪い。

ピストン そうかも。(第二試合の喇叭) じゃあ、この試合はどうだ？

バシリスコ 良い、良いが、見事ではない。修行中なら良いほうだが、戦士としては良くない。

ピストン 僕は良いと思ったのだが。

バシリスコ 子供の目から見れば、孔雀の羽根は素晴らしいだろう。(第三試合の喇叭)

ピストン うまく走った！青い尻尾の赤茶の馬と銀色の鎧を着けた騎士が倒された！鳥とパイとネズミの脚にかけて、あのイングランド人は見事な騎士だ。

バシリスコ 大理石の如き空にかけて、勇敢な戦士だ。

ピストン その誓いは何だ、言葉弄りめ。(第四試合の喇叭)

バシリスコ 我が恋人に求愛した小僧が出てきた。ああ、槍を備え、面頬を着けて私自身がこの戦いに臨めたなら！

ピストン いいぞ。私の御主人がトルコ人を倒した！

バシリスコ トルコ人め、子供に打ち負かされるとは——イライラする。  
(第五試合の喇叭)

ピストン やった！ご主人様がフランス人に勝った！

バシリスコ 馬の気性のお陰だ、あいつの腕が強いのではない。さっきの誓いはなしにしてくれないか、お前の主人に挑みたいのだが。

ピストン どうぞ、それで破滅してください。でも、お前の馬はどこだ？

バシリスコ 小姓が轡を持って立っている。

ピストン よし、馬に跨れ。

バシリスコ 行こう——運命の女神が我が槍をお導きになりますよう！（退場）

ピストン キリスト教国で一番の法螺吹きと一緒に行くがいい！本当に、可哀そうなやつだ。あいつは騎士のように戦うだろうか？いや、馬のようにぶつかるだけだろう。馬鹿の自慢話を聞くのは最高だな。草の上のガチョウのように、やつは威張って歩くだろう。彼はよく夕食抜きで眠り、痩せるために薬を飲む。昨晚、あいつは淑女に夕食に呼ばれたが、肉を切り分けるのが嫌で、手にスカーフを巻いて怪我をしたと言った。色付きの木剣を鞘に入れて持ち歩き、それが見つかった時、怒りっばいから鉄は持たないと言いのけた。奴は麝香を身に付けていて、どこで手に入れたか問われ

ると自分の親類は皆この匂いだと言った。こんな奴が偽物の馬鹿ではないというのか。さあ、上に登ってあいつがどうなるか見てみよう。(第六試合の喇叭) あいつは随分弱い騎士だな。私の主人が馬もろともあいつを倒したぞ。これで大いに笑える——穴の中のキツネ<sup>19</sup>より面白い。(退場)

## 第1幕第4場

フィリッポ、キプロスの王子、エラスタス、ファーディナンド、ルーシーナ、そして全ての騎士たち登場。

キプロスの王子 勇敢な紳士たち、あなた方が同意したとおり、この無名の若者が一番見事に戦った。布告に基づき本日の名誉は彼のものである。さあ、マスクを取りなさい——戦士の顔に刻まれた年月の皺を我々が見ることができるように。

イングランド人 ご要望に従うのだ、勇敢な戦士。私を打ち負かした者の顔を見せてほしい。

フランス人 マスクを取りなさい、立派な騎士。

ブルーザー お前の顔を見せてくれ、勇敢な戦士よ。

ルーシーナ 勇敢な方——断ることは出来ませんよ。美しい女性であれば顔を見せるのをためらうでしょう、日光で肌が焼けるといけませんから。今回だけ私が小姓になって兜を取るのを手伝いましょう。

ピストン (傍白) そうやって自分の夫が角を生やすのを手伝わせるのだな<sup>20</sup>。近頃の手管は見事だな。

フィリッポ どうした、若きエラスタス——

キプロスの王子 エラスタス、榮譽を称えられるのだ。

イングランド人 これだけ若くして、このような偉業を成すとは！立派な青年、今日の結果が保証するとおり、美德、勇気、善事において繁栄されますよう！握手を——私は君の親友だ。

エラスタス 私のような未熟者を仲間に加えていただいたことに感謝しま

す。皆様全員にお礼を申します。何かお役に立てることがあれば私に任せてください。エラスタスはいかなる義務も果たします。

フィリッポ お礼はそこまでにして、ラボルタ<sup>21</sup>を踊ることにしよう——女性たちの踊りだ。本日の残りの時間はそうして過ごそう。

ファーディナンドを残して全員退場。

ファーディナンド 試合には敗れて踏みつけにされたが、この不名誉を分かち合う者たちもいる。あんなに若くて有望な戦士が、世に認められた騎士たちに立ち向かい彼らを倒したとは！でも、徳のある者になるなら人を羨んではいけない。だからエラスタスの幸運を称えよう。だが、ルーシーナは私がすぐに馬から落ちたのを見て頭を垂れた、私の恥を分かち合うように。だから今から彼女を訪ねて、今日幸運にも見つけたこの首飾りを渡して彼女を喜ばそう。勇敢さでは劣る時、金が道を開いていく。(退場)

## 第 1 幕第 5 場

バシリスコがラバに乗って登場。

バシリスコ 呪われた運命の女神、名声の仇——お前の名をタイタンの燃え盛る光の彼方まで広めた男を打ちのめし、自らの名誉を汚すとは！（ピストン登場）小姓、我が敵の道化を近づけないでくれ。小銭を渡して出て行かせろ。

ピストン やあ、元気か。脛を怪我したのか。

バシリスコ そうだ、悪党——脛の骨に背骨、鎖骨、太腿の骨、それに他の小骨も。

ピストン 辛いですね、本当に。ちなみに、あなたの馬の尻尾はどこですか？

バシリスコ 試合で失くした。

ピストン あれを失うとは熱い戦いだったのですね<sup>22</sup>。では、馬の鼻に傷があるのは何故ですか。

バシリスコ 皇帝の雌馬に跨ろうとしたからだ。

ピストン 悪い行いだ。では、耳も切られているのは？

バシリスコ 皇帝の宮廷で嘶いたからだ。

ピストン あの馬も昔はお盛んだったのでしょ。

バシリスコ そうだ。馬の頬には触れるな。まだ傷が痛むのに、落馬するわけにはいかない。(小姓に) おい、医者を呼んでこい、瀉血<sup>23</sup>を頼もう——いや、私も一緒に行こう。(退場)

ピストン では僕もお供しよう。(ピストンはロバに乗って行こうとしたところ、出口で触れ役に会う)

触れ役登場。

ピストン おい、首飾りのことを触れ回れるか？

触れ役 値段の張るものですか？

ピストン お前とお前の親類全員を合わせた以上の金になる。

触れ役 そうですか。それで、見つけた人への報酬は？

ピストン 100 クラウン。

触れ役 じゃあ、触れ回って10クラウン貰いましょう。

ピストン 10クラウン？お前は、酒場から売春宿に行く道で迷った30かそこの女のことを触れ回っても6ペンスしか稼げないだろう。

触れ役 それは貧しい女だからですが、今回はモノが金で金持ちですから。

ピストン そうだと、馬貸し屋が奥様方に馬を貸したら<sup>24</sup>10シリングで、物乞いに貸すのは10ペンスという計算になる。

触れ役 全くその通りで。払える人には払ってもらいましょう——弁護士も金持ちの依頼人に対してはそうですが、貧乏人には見合った対応をしますから。

ピストン じゃあ、僕のために首飾りのことを触れ回ってくれ——貧乏人以下の扱いで。今はひどい金欠だから。

触れ役 でも、あなたのご主人は違うでしょ？

ピストン 僕の代わりにお前が首飾りを探していると知られてはいけない。

自分の仕事だけど、面倒だからお前をお願いしているのだから。

触れ役 では、後で私のために口利きしてもらえますかね。

ピストン わかった——〔傍白〕考えておくと言うほど安い支払いはないからな。

触れ役 よく聞け！

エラストス登場。

エラストス なんだ、何を叫んでいる？

触れ役 首飾りですよ、首飾り。あなたの家来に頼まれてまして。

エラストス 失せろ。私の首飾りに関わるな。(触れ役退) 小僧、するなと言ったのに、なぜこんなことを？こっそり町の中を探してこいと言わなかったか？噂になって彼女に知られたら、私は再び死んでしまうのだから。

ピストン 僕の靴が駄目になるまで、町中を走らせたのですか。

エラストス 靴が駄目になった分は、この手で前にお前に渡そう<sup>25</sup>。

ピストン お願いですから手を引っ込めてください。首飾りを見つけるため最善を尽くしますから。(退場)

エラストス ああ、不実な運命、愛の敵——私を転落させるために上に登らせたのか？戦争の真似事をしているうちに、私は最も大事な心の平和を失った。栄誉を求めるうちに、私は愛を失った。愛が難破して、私の命も無くなるだろう。名誉はお前<sup>26</sup>に渡すから、首飾りを返しておくれ、私の喜びは全てそこにかかっているのだ。首飾りを渡す時に彼女は言った、「これを身に付けていて、私だと思って」。あれを失ったから、彼女を失ったのだ。彼女を失えば私の幸福も全て失う、それは死よりもつらい。優しい死よ、だから私の元に来て悲しみを癒してくれ。そして意地悪な運命を止めておくれ。いや、待ってくれ、死よ、私を生かしておいてくれ。時が経てば、運命が私から奪ったものは戻るかもしれない。でも、大切なモノはめったに戻ってこない。首飾りを取り戻せなかったらどうしよう？私の罪ではないから過失はないはず。でも、私の恋人は厳格で恋人には正義を求める。晴れの日急に嵐が吹くように、彼女の眉間に浮かぶ曇りと皺に、

正義を貫く彼女の意思が、そして私の破滅が見える。(退場)

## 第1幕第6場

ソリマン、ハレブ、アムラス、イエニチェリ登場。

ソリマン 武勇試しにロードス島に集まったキリスト教徒たちの中でブルーザーがどう戦ったか、知りたく思いながら私は彼を待っている。だが、それよりもブルーザーに確かめたいのは、ロードス島の防御の様子、そしてあの領土を我が物とするため、私がどのように（これまで失敗したことはない）包囲戦を行うかということだ。聖なるコーランに誓って、私はペルシャから兵を呼び戻し、ペルシャ王には一息つかせよう。そして、勇敢で恐れ知らずの我がイエニチェリをロシアの戦いから帰らせ、キリスト教国の辺境から司令官と軍勢を呼び戻し、海陸両方からロードス島を包囲するのだ。そこを鍵として全ての門が開かれたならば、（今はあの小さな島によって守られている）キリスト教国の心臓を突いてとどめを刺すまで、私の行く手を遮るものはない。わが弟アムラス、そしてハレブよ、我が決意をどう思うか。

アムラス 偉大なるソリマン、天の唯一の代理人、そしてマホメットの下にある地上の指揮官、仰せの通りのことを私も提案します。

ハレブ 失礼ながら、陛下、あなたの軍勢をペルシャとポーランドから呼び戻し、防御が弱いあの小さな島に向けることが賢明だとは思いません。そのような軽い任務には、トルコの平民たちをすぐに集めることができます。ああ、ソリマン様、秋になれば枯れた葉が揺れ落ちてゆくように、あなたの名は敵を震え上がらせましたが——そのような失策でああなたの栄光を曇らせないでください。ペルシャが屈服し、あなたが征服者となるまで、我らの兵に恥ずべき退却ラッパを吹かせたりしてはなりません。偉大なあなたにとってどんな醜聞となることでしょうか、数多の勇敢な指揮官たちが殺された後で——彼らの血は大地の肥しとなり、彼らの骨はぬかる

む地面に並んでそこを通れるようにしたのです——征服することも何ら復讐することもなく、不名誉にも祖国に退却したならば！ペルシャを逃がしてまでロードス島を求めてはなりません。一方<sup>27</sup>は瀕死のライオン、その皮は狩人の苦勞を埋め合わせるでしょうが、もう一方<sup>28</sup>はスズメバチ、その蜜は奪う価値もありません。

アムラス ハレブ、兄がコーランに誓ったのを聞かなかったのか、各地に散らばった軍勢を集めて統一軍を作るということを？なのに、何故それが駄目だという理由を持ち出すのか？お前が我が父の息子でなかったならば、また兄弟の情と怒りが争うことがなければ、君主の聖なる誓いを阻むとどうなるか、この場でお前に分からせるのだが。

ハレブ 陛下が自分の考えを話すことを許されたのだ。追従ではなく自分の思いを話した、忠実な臣下としての愛ゆえに。お前こそ、我が兄弟で高位の者とは思えぬ、アリストテッポス<sup>29</sup>のようにお前は兄に甘言を弄しているのだ。それに、陛下の誓いに逆らってはいない、命じられたとおり自分の意見を述べたまでだ。私を懲らしめるといいますが、アムラス、私は気にしない——ライオンが夏の夜に飛ぶ虫の音を気にしないように。

アムラス お前はロードス島に内通しているのだな？

ハレブ そうではなく、むしろお前が我が主君の敵なのだ。

アムラス 私がなぜ敵なのか言え。さもないと、マホメットにかけて主君の御前であろうと容赦はしない。

ハレブ 脅されたからではなく自分のために言うが、お前のように卑しい者は主君の傍にいるべきではない。

ソリマン 私はこの無礼を捨て置いていいのか？

アムラス 私が愛ゆえに述べていることを陛下はお分かりのはず。

ハレブ あなたの命により私が話していること、それもお世辞ではなく的を得たものであることは陛下もお分かりのはず。

アムラス 私がお世辞を言ったというのか？そんなことはしない！（ハレブを殺す）

ソリマン なんという不吉な星がこの死の時間をもたらしたのか？悪党、弟が呻いてお前を呼んでいるぞ（アムラスを殺す）、永遠の夜を共にさまようために。

アムラス ああ、ソリマン、あなたを愛したゆえに私は死ぬのです。

ソリマン いや、アムラス、弟を殺したためにお前は死ぬのだ。ハレブ、お前をどうやって弔おう、どう涙を流そう——どんな言葉も、どれだけの涙も足りないであろう。この王冠で、お前の残酷な運命を償えればよいのだが！あるいは、千人のトルコ人の魂か、それとも敵 20 億人の魂を身代金として、死の残忍な支配からお前を助け出せればよいのだが！お前の命を取り戻すためならソリマンは貧民になろう、そして生涯、奴隷として生きよう。呪われたアムラス、つまらない理由のために私のハレブを殺してその人生を奪うとは！兄弟の絆より貴重なものがあるだろうか？だが、アムラス、お前も私の弟であった——愚かな考えのために私が何も見えなくなっていなければ！お前がハレブと同様に立派で、私がハレブに対するようにお前に優しく、そしてお前がハレブと同様に私に近しいものであったならば！アムラス、私の考えに逆らったハレブになぜあのようなひどいことをした？ハレブ、なぜお前の心は無礼な物言いを抑えようとしなかった？いや、哀れなソリマン、なぜお前は自分の手を抑えなかった、血の上にさらに血を流すとは？二人を失うよりも、一人——私の喜び——は残しておくべきだったのではないか？ハレブへの愛のため私は怒りに駆られた——死をもたらした怒りが呪われればいい！正義が私を突き動かしたのなら、兄を弟の殺戮者とした正義は呪われればいい！イエニチェリよ、私と共に嘆いてくれ、二人をそれぞれ私の横に抱えて運んでくれ——かつては我が喜びであり、今や私の終わらない悲しみとなった者たちを。ソリマンはこうして歩いて行こう、両手に自分の魂の残骸を抱えながら。（全員退場）

## 2. プロローグ

愛、死、運命が登場。

愛 死と運命よ、我々三人のうちでこの劇の人物たちに最も大きな力を及ぼしたのは誰だったか。愛の証の交換によってエラストスとパーセダの愛が成就するよう仕向けたのは私ではなかったのか。

運命 だがその証である指輪と首飾りは運命の贈り物だ。愛は金も宝石も与えてはいない。

愛 宝石も金もただの土ではないのか——どちらも土の中の水分が圧縮されたもので、太陽の光を浴び、人間の目に無益な喜びを与えることとなった。愛が成すことは人間の力を超えるものであり、私は人の心を一致させて結びつける。ロードス島の王女をキプロスの王子に渡したのも愛ではないか？

運命 彼らは運命が初めに偶然によって引き合わせたのだ。運命の差配で人々が出会うまで、彼らの目が心を傷つけることはないのだから<sup>30</sup>。

愛 私は異なる宗教と国の騎士たちがその武術によって恋人たちを称えるようにした。

運命 それは1人だけだ<sup>31</sup>。他の者たちは私が運命の車輪を回したため名誉を得ることができなかった。エラストスに与えたのはその日の名誉にすぎない。それは心地よいものだが、苦い悲しみも伴っていた。何故なら、その幸福の後、彼の希望と喜びの全てが掛かっていた貴重な首飾りをエラストスは失ったのだから。

死 いや、それ以上だ。その鎖を見つけた男は、そのために命を奪われるのだから。

愛 それに、愛は愚かな威張り屋<sup>32</sup>が戦うように仕向けた。

運命 だが、その男が不機嫌な運命により負けてしまうのを見たであろう。

死 その通り、そしてもし運命が許したならば彼は死に捕まっていたはず。

だが、彼と他の者には猶予したことを、ハレブとアムラス——偉大なるソリマンの立派な弟たち——には行つた。だが、何故我々はここにとどまっているのだ？ 運命か、死か、それとも愛か、誰が最も偉大であるかはこの後の続きが証明するだろう。(全員退場)

## 第2幕第1場

ファーディナンドとルーシーナ登場。

ファーディナンド 互いの燃え盛る愛情を言葉と目で冷ますにはちょうど良い時間と場所です、我々の思いが同じであればですが。

ルーシーナ 私の言葉、目、そして思いは全てあなたに向いています、ファーディナンドはルーシーナの唯一の喜び。

ファーディナンド その印は？

ルーシーナ 誓いの言葉、そしてこの手とキスです。[ファーディナンドにキスする]

ファーディナンド ああ、聖なる誓い、白い手、甘いキス！ファーディナンドがこの幸福を失いませんように！それでは、天の門が開き、神々が微笑みながらハイメン<sup>33</sup>の衣装を見る日はいつになるのでしょうか。三人の女神たち<sup>34</sup>、あるいはルーシーナが薔薇の冠であなたの金髪を飾り、キューピッドが私を婚礼の床——あなたとその最愛の恋人である私が幸福な戦いを行う場所——へ連れて行くのはいつでしょうか。

ルーシーナ 愛で満たされ欲望で燃える私は、ハイメンの松明に明かりが灯されるのを長い間待っているのです。

ファーディナンド では、暖かく心地よい中、沢山の綺麗な花々が咲く春の日を私たちの喜びと安らぎの始まりの日としましょう。それまでこの貴重な首飾りを持っていてください——この首飾りの宝石が結び付けられているように、私たちの心はずっと一つに結ばれています、それを分かつのは死のみ。

バシリスコとパーセダ登場。

ルーシーナ 生きている限り、このことは忘れません。ファーディナンド、パーセダが来たわ。女性にはその美徳のため愛され、男性にはその美貌のため愛され、そしてこの世の誰もが愛しているパーセダが——彼女を憎むのは悪意だけ。

バシリスコ [ファーディナンドに]やあ、騎士！[ルーシーナに] おはよう、今日の一番美しい輝き——愛の女王ヴィーナスをも恥じ入らせる我が恋人パーセダは別にしてですが。

ファーディナンド 本当にパーセダは幸せですね、あの勇敢な勝者が恋人なのですから。

バシリスコ 彼女の恋人だと？彼女の騎士だ<sup>35</sup>！誰であれ、それを否定する奴は我が剣と槍の餌食にするぞ。

ファーディナンド いいえ、そんなことしません。

ルーシーナ ここにいるのは友人ばかり。でも、[バシリスコに]あなたには異義を申し立てます——私が最も美しいけれどパーセダがより美しいなんて、意地悪なことを言って。私たち女性は美しさが大事なのですから。

パーセダ ルーシーナ、私に彼を弁護させてください。

バシリスコ 軍神マルスもこのように美しい盾は持たなかった<sup>36</sup>。

パーセダ 彼は愛で盲目になっているのです、目の見えない人に色の区別はできません。

ルーシーナ では、これで仲直りしましたから、私たちはまた友達です。

パーセダ (傍白) 友達ですって？ずっと敵です——彼女は私の首飾りを着けていた。ああ、嘘つきのエラストス、私は裏切られた！

ルーシーナ どこか傷むのですか、顔色を変えられて。

パーセダ 急に吐き気がして。これで失礼します。

ルーシーナ 家まで付き添いましょう。

パーセダ いいえ、すぐですから。

ルーシーナ では、さようなら。ファーディナンド、行きましょう。

ファーディナンドとルーシーナ退場。

バシリスコ 輝ける星、どうされたのか教えてください、私がルーシーナに言ったお世辞が気に障ったのですか。

パーセダ いいえ、彼女の方が私より断然美しいです。彼女は私の首から賞賛の証<sup>37</sup>を勝ち取ってしまいました。

バシリスコ 天の恩恵と正義によって、私の愛がついにあなたの透き通るように白い胸を貫いたのだとしたら、あなたは私がつれない態度をするかと不安に思っているのですか？ご安心ください、この私の高貴な心は屈服した敵を虐げるようなことはしません。ですから恋人よ、恐れは捨てて陽気になってください。以前のあなたの残酷な仕打ちは忘れますから。

パーセダ ああ、裏切り者の不誠実なエラスタス！

バシリスコ いつも言っていたでしょう、あのような臆病な騎士は誠実さに欠け、尊敬するに値しないと。ですが、恋人よ、彼の罪を教えてください、言葉と鞭で私が懲らしめますから。彼を縛って連れてきましょう、あなたに踏みつけてもらいます。

パーセダ（傍白）この男が立ち去るよう、何か考えなければ——すぐにここを去り、全身に鎧を着けて、1時間後に私の家に来てください。詳しく話しますから、私の代わりに復讐してください。

バシリスコ そう、勇敢な男はそのように用いるべきです。これはあなたの真実の愛の証となります。行って、エラスタスが死ぬように手はずを整えましょう——あの弱虫がこのことを聞いて逃げなければですが。（退場）

パーセダ 馬鹿な臆病はお前のほう！逃げるですって、エラスタスは死にません——この世で最も美しい姿の、でも最も汚れた心を持った男！私の舌には力が無く、悲しみを伝えることができない。誰かに打ち明けなければ、心臓が張り裂けてしまう。でも、悩みは悲しみとともに心の奥底に閉じ込められている、打ち明けたとしても私に安らぎはない。私の頭は湿気<sup>38</sup>で満たされている、涙の雨を降らせて悩みを消すことができればよいのに！でも、熱いため息が突風のように激しく吹いて、私の涙が地面に落

ちるのを妨げてしまう——病巢は切開されることもなく、私は死んでしまう。嘘つきのエラスタス、私がどんな間違いを犯したというの、私の愛をこのように嘲って捨ててしまうとは！（エラスタス登場。）私の純粋な心を裏切ったシノン<sup>39</sup>がやってきた。彼の偽りに私も調子を合わせなければ。

エラスタス（傍白）欲望は私を駆り立てるが、恐れが私を引き留める。でも行こう、無実な人間に恐れることはない——ご機嫌はいかがですか、パーセダ、私の分身。

パーセダ 良くなりました。私の唯一の喜び、エラスタスが来てくれて、私たちの心は一つになったのですから。

エラスタス 私の愛の住処<sup>40</sup>に着くまで、私の喜びは苦痛であり、私の癒しは嘆きなのです。

パーセダ 私のエラスタスにとって愛とは何ですか、教えてください。

エラスタス 比類なきパーセダ——あなたは多くの勇者たちの手から勝利をもぎ取る力を私に与えてくれました。征服者はあなたの名前であり、私の武術ではありません。私の盾はあなたの目、私の甲冑ではありません。私を守ったのはあなたの美しさ、私の力ではありません。私を運んだのはあなたの愛、私の駿馬ではありません。ですから、私の愛と命はあなたのお陰なのです。何故、パーセダはそんな疑いを持つのですか、まるでエラスタスが自分を忘れたようなことを言って？もしそんなことがあれば、あらゆる復讐が私にふりかかりますように！

パーセダ ああ、邪悪な男性はなんと恥知らずなのでしょう！もう我慢できない！どうやって、そのように私を引き付ける眼差しをして、嘘の誓いをするのできるのですか、哀れな娘を傷つけるために？あなたは本当の涙を流したりしないのですか、その欺瞞に満ちた顔を赤面させるために！私を恋人と呼びながら、他の女性をより愛するのですか。もし天の神々が正しければ、この偽りの誓いを罰するため、あなたは舌を噛み切るでしょう！もし天の神々が正しければ、男性の胸は丸見えになるでしょう、私た

ちがその悪巧みを読み取れるように！もし天の神々が正しければ、愛を強いる力が狼と羊を一緒にしたりはしないでしょう！そうです、天の神々は正しいのですが、その影響もあなたの場合は駄目になってしまいます、あなたがあまりに墮落しているから——蜘蛛の体内で全てが毒に変わるように。ああ、嘘つきのエラスタス、私がどんな悪いことをしたというの——私の値打ちとは決して釣り合わない彼女に、私の本当の愛の証を渡してしまふなんて！ルーシーナは私より裕福なのですか？でも、私の富はあなたのものに劣りません。彼女は私より美しいのですか？それは私の責任ではありませんし、それが彼女の長所にもなりません。美とは萎れた花、年をとって体が衰えればすぐに刈り取られてしまいます。彼女のほうが私より賢いのですか？でも、彼女のほうが私より年上です。彼女がどのような人であれ、私の愛は彼女の愛以上のものです。彼女の貞節については、他の人が判断してくれるでしょう。でも、何故彼女のことばかり話しているのでしょうか——悪いのはあなたです！仮にあなたには私が不快なものに見えて、私の分を彼女が得るにしても、何故私のものを彼女に着けさせたのですか。あの首飾りでないと駄目だったのですか、私の命としてあなたに預けたものなのに？私の純粋な思いを踏みにじるのですか、あなたを愛しすぎたことだけが罪である私なのに？あなたの偽りの証はもう要りません、これを彼女に渡しなさい（指輪を返す）。これでパーセダは自由です、私の愛は憎しみに変わりました。

エラスタス 待ってください、パーセダ、聞いてください。

パーセダ あなたの言葉はサイレンの歌、聴く人を嘘で楽しませるが、心は壊れてしまう。

エラスタス では無実を訴えている私の涙を見てください。

パーセダ あなたの涙はキルケが魔法をかけた海——目隠しされた<sup>41</sup> 船乗り以外、難破を逃れません。

エラスタス 言葉も涙も嫌なのでしたら、私の眼差しを見てください。厳格なあなたに慈悲を求めています。

パーセダ あなたの眼差しはコカトリスと同じ、罪のない哀れな旅人を傷つけるもの。

エラスタス 言葉、涙、そして眼差しでも私を憐れんでいただけないのなら、他に何かあるでしょう？ 混乱した私の心を訳して伝えてくれるのは言葉と涙と眼差しだけなのです。

パーセダ あなたと同様、それらは全て偽りです。(退場)

エラスタス つらい死の判決だ、私の訴えもまだ済んでいないのに。判事は不当だが、彼女を責めることはできない、愛と嫉妬のために誤解したのだから。私に過失があるが、責められる筋はない、愛ではなく運命がその過失の原因なのだから。彼女のくれた大事な首飾りを失ったせいで、彼女は冷たくなった。ルーシーナが首飾りを持っていると言った、だがどうやって彼女がそれを手にいれたかは神のみぞ知る、私にはわからない。ただ、悲しみを和らげることがある——あの首飾りを取り戻すことができたら、彼女が恋人のエラスタスを不当に扱ったと言おう。ああ、愛よ、お前が天上の力であるならば、何か策をすぐに授けてくれ。こうしよう——ルーシーナは賭け事が好きだから首飾りを賭けるだろう。噂が正しいければ、きっと賭けにのって来るはず。ピストン！

ピストン登場。

ピストン 何か御用ですか。

エラスタス ゲルピオとジュリオに話があるから来るように言ってくれ、クラウン金貨を持ってな。それから仮面を四つ、ガウンを四枚、箱と太鼓も。変装して出かけるから。

ピストン わかりました。(ピストン退場)

エラスタス 絶えず回転する天の星々よ、彼女が賭けに応じるように、そして私が勝つようにしてください！私が求めているのは自分のものなのです。彼女が嫉妬のあまり私にひどいことを言ったとパーセダには分からせよう。彼女がパーセダでなかったなら——鉄が磁石から離れぬように私も彼女から離れられないのだが——あんな仕打ちをされて私も心変わりして

いただろう。

ゲルピオ、ジュリオ、ピストン、鼓手登場。

ゲルピオ エラスタス様、どのような用件でしょうか。

エラスタス この通りだ——変装してルーシーナの所へ行かねばならない、愛や憎しみのためじゃない。彼女の着けている首飾りを手に入れるためだ。その首飾りは私に関係するもので、運命は私を自分のものの主人としてくれるだろう、私があ的女性を訴えなくても。賭けか交換で、あるいは他の策略できっと私のものにしてみせる。賭けが終わったら残りの事を話すから。

ジュリオ では準備に取り掛かりましょう。

エラスタス 金貨はどれだけ持ってきた？

ゲルピオ 心配いりません。金貨の箱を持っています。

ジュリオ 必要なら私もいくらか持っています。

ピストン ご主人様、狩りに出かけるのに弓を忘れる奴は馬鹿でしょうか。

エラスタス その通りだ。それがどうした？

ピストン いかさまサイコロを持っていかないと、金貨を失い首飾りも手に入らないってことになるかもしれません。

ゲルピオ あの馬鹿の言うとおりで。いくつか持って行きましょう。

ピストン 僕は出かける時はいつもいかさまサイコロを持っているので。のっぽとチビです。

ジュリオ それを言うなら高いやつと低いやつだろう<sup>42</sup>。

エラスタス さあ、行こう。太鼓を打ち鳴らしてくれ、褒美は出そう。ピストン、馬鹿なことをしてこの遊びを台無しにするなよ。

ピストン 大丈夫です、賢いことは言いませんから。

太鼓を鳴らしながらルーシーナの部屋のドアまで来る。

ルーシーナ あら、ハートのキングが来たわ。ここで賭けをしましょうか。わかりました、ファーディナンドがそう望むのでしたら<sup>43</sup>。

彼らはサイコロ賭博を始める。ルーシーナは金貨を失い、エラスタスは

彼女の首飾りを指さす。

ああ、これがクレオパトラの真珠<sup>44</sup>であれば！

エラスタスが首飾りを得て、金貨を失う。

ファーディナンド、あなたですね。皆さん、行く前に仮面を取ってください、お礼を言うべき方の顔を見たいですから。これは思いもしなかった良い遊びでした。え、駄目ですって？では、明日一緒に食事をされますか？

では、またお目にかかりましょう。さようなら。(退場)

エラスタス みんな、全て上手くいった。彼女は私をファーナンドと勘違いしたようだ、見ただろ？君たちの金貨は倍の感謝の気持ちと共にお返ししよう。鼓手、お前にもお礼しよう。

ピストン 私のいかさまサイコロのお礼は？

エラスタス ああ、わかった。縁飾りの服を渡そう、上から下まで揃えて。

ファーディナンド登場。

ファーディナンド 目がおかしくなったのか——あれはルーシーナの首飾りではないのか？嘘つきの詐欺師、盗んだ首飾りを置いていけ。

エラスタス 私を嘘つきと呼ぶお前の方が嘘つきだ。

ファーディナンド この剣でその嘘をお前の喉に押し込んでやる！

エラスタスはファーディナンドを殺す。

ジュリオ 逃げろ、エラスタス、総督に知られる前に。ファーディナンドは彼の親類で、かわいがっていたのだから。

エラスタス いや、みんな逃げてくれ、自分の身を守ってくれ。私の過酷な運命に巻き込まれないためにも。

ゲルピオ、ジュリオ、[鼓手] 退場。

ああ、気まぐれで盲目の世界の案内人<sup>45</sup>、私の不幸にどんな楽しみがあるのだ？私が首飾りを失くし、最愛の恋人を失っただけで十分だったのではないのか？その首飾りを再び手にした今、こんな不幸な事件に直面させるとは！時と場所が許すならば、自分の身の潔白を証明するのは容易だろう。そして残酷な運命と愛、死を責めるのだ、その三人が私の悲劇におい

て共謀したのだから。だが、危険が迫っている、留まるわけにはいかない。ここでもし総督に捕らえられたら、私は軍法により死刑になる——だから行かねばならない。でも、どこに行こう？ロードス島の近隣に逃げれば、そこの人々は私を騙してフィリップに引き渡すだろう、友情、金、あるいは追従のために。私はトルコに行かねばならない——航路は短く、人々は勇猛果敢、そして国王は名高い立派な君主とされている。ああ、辛いことだ、敵に助けを求めなくてはならないとは！だが、そうせざるを得ない、さもなければファーディナンド——無礼を懲らしめるため、また名誉のために私が殺した男——の死の代償として自分も死ぬことになる。ピストン、この首飾りを受け取れ、パーセダに渡してくれ、そして私に起こったことを知らせるのだ。それを届けた後、船に乗って私を追いかけて来い。私はコンスタンティノープルにいるから。さようなら、我が国、私の命より大切なもの。さようなら、愛しい友人たち、この国の大地よりも大事なもの。さようなら、パーセダ、この中で最も大事な人、この世界全てよりも私には大事な人。(退場)

ピストン どうすればよいか、難しくなった。この首飾りを持って逃げるか、もしくはこれを届けて主人の後を追うか？主人に届けたら感謝されるだろうが、それで太ったりはしない。これを持って逃げたら、首飾りを着けている間は信用で生きていけるし、もしくはこれを売った金で豪遊できるだろう。そこまではいいが、もし捕まったら状況は変わって縛り首だ。首に輪を着けて説教するのは嫌だ<sup>46</sup>。だから、今回は自分の意志に逆らって正直者になろう。パーセダにこれを渡そう。だがその前に、この紳士<sup>47</sup>のポケットを物色しよう、彼が断らなければ。いいですか——わかりました、「沈黙は同意なり」<sup>48</sup>。

フィリップとジュリオ登場。

ジュリオ あそこに死体があります。

フィリップ ああ、すぐにわかった。あそこで物を盗もうとしている奴は誰だ？ああ、ファーディナンド、老いた私の支えであり唯一の後継者よ。卑

怯者のエラストスにどうしてやられたのだ？騙されたのだろう、お前の強さは折り紙付きなのだから。だが、こうして泣いて無駄に嘆いている間、人殺しは復讐——この悲しみの唯一の慰め——から逃れていく。言え、小僧、なぜそんなことをした？

ピストン 善意からです。彼が天国に行かれるのを見て、聖ニコラス様<sup>49</sup>の所に行く通行書を持っているか確認しようと思いました。

フィリッポ どうやら阿呆のようだから、痛めつけるのはかわいそうだ。誰がこの男を殺したか知っているか？

ピストン 良く知っております、私の主人のエラストスです。

フィリッポ お前の主人だと？そいつはどこに行った？

ピストン 死体を埋めるために墓堀人を探しに。

フィリッポ こんな馬鹿を投獄するのはかわいそうだ。

ピストン (傍白) 馬鹿のふりをしておくのが良さそうだ。

フィリッポ こっちに来い。私がこの町の総督であることは知っているな。

ピストン はい、もちろんです。

フィリッポ お前は奴隷か。自由になりたいか。

ピストン もちろんです。

フィリッポ それならこうしろ。自由にして金持ちにもしてやる。エラストスの居場所を見つけて私に伝えろ、そうすれば褒美をやる。

ピストン わかりました。お城に行けばよいですか。

フィリッポ そうだ。

ピストン すぐに戻ってきましょう。(退場)

フィリッポ エラストスが逃げないように、港には見張りを置くことにしよう。そして、あの人殺しを連れて来た者には3千ダカットの報奨金を与えるという布告も出そう。私は彼の遺体をここから運ばせ、聖油と葬儀で弔うことにする。(退場)

## 第2幕第2場

ピストン登場。

ピストン 神様は馬鹿には運を授けてくれる<sup>50</sup>。こんな風に逃げた賢い人間がいるか？ご主人様を裏切らねばならない。でも、どうしよう。(パーセダ登場) パーセダ様がやってきた、手間が省けたぞ。ご清祥のことと存じます<sup>51</sup>、次の事をお伝えます、ご主人様はこれを渡した時はお元気でした。これからもよろしく願います。敬具。(パーセダに首飾りを渡す)

パーセダ こうしてみると、私はあまりに残酷だった。彼はルーシーナからどうやってこれを手に入れたの？

ピストン 変装といかさまサイコロ二つです。私もその仲間でした、ただ立っているだけでしたが。

パーセダ 高くついたのではないかしら。

ピストン はい、そのためにファーディナンドは命を失いました。

パーセダ どうしてそのようなことに？

ピストン 変装して首飾りを手に入れた後——金貨は引き換えに失いましたが——ご主人様がそれを首に着けました。帰り道にファーディナンドに会い、彼をご主人様を泥棒と罵りました。それで互いに剣を抜き、ファーディナンドは刺されました。

パーセダ それで、私の可哀そうなエラスタスはどこに逃げたの？

ピストン コンスタンティノーブルです。僕もそこに行かねばなりません。逃げる前、ご主人様は溜息をつき涙を流しながら、あなたに首飾りを届けるよう命じました——彼が誠実だったこと、そしてあなたの誤解の証拠として。

パーセダ もう止めて。これ以上は聞けない。

ピストン もう私も歌いません<sup>52</sup>。

パーセダ 私の心は舌に悪意をこもらせ、私の恋人を不当に扱った、彼の心

は常に誠実であったのに。ああ、哀れなエラスタス、意地悪な星に支配されたあなた！疾風を司る偉大なネプチューン、彼を戻してください！でも、イオラス<sup>53</sup>とネプチューン、彼を行かせてください、ここには復讐と死があるだけです。どうか彼を行かせてください、すぐに私も追いますから——ゆっくりとではなく、愛の黄金の翼を使って！船は涙で浮かべましょう、溜息を吐いて動かしませう。そして私はトルコに舞い降り、愛しいエラスタスに会うのです！そこで彼の胸にもたれかかって、心の思いを彼に注ぎませう、過去の私の過ちを償うために。

バシリスコが武装して登場。

バシリスコ 美しい恋人、あなたの命令に従い、私はエラスタスを探し出して彼と決闘します。

パーセダ ええ、彼を見つけて私の前に連れてきて。会えるまで私の心が喜ぶことはない。(退場)

バシリスコ そのチビ、お前の主人をどこに隠した？

ピストン 武具店ですよ。でもあなたは行かない方がいい。

バシリスコ 何故だ？我が名誉のため、彼と決闘しなければならないのだが。

ピストン あなたの激しい気性を知って、ご主人様は入口に大砲を置きました。あなたが通りかかったら発砲されます——本当に善意からお伝えしますが。

バシリスコ 騎士としてお前に礼を言おう。だが、あの臆病者はそうやって私から逃げるつもりか。大砲ごときで私が引き下がると思っているのか。この盾は砲弾にも耐えられる。その後、盾を置いて私は彼に飛びかかる、天上から落ちる稲妻のように。勇ましい眼付で彼をたじろがせよう。哀れなあいつは跪き、時既に遅しだが、自分の傲慢さを悔いるのだ。それから私は指先で彼を掴んで、こうやって町中を引き回し、皆の笑い物にしてやろう。それが終わったら、あいつを我が恋人の足元に置いて、生か死の宣告を彼女が行うのだ。

ピストン でも、聞いてください。僕はあなたと別れる前に拳で戦わなければいけないのです、ご主人の機嫌を損なわないために。

バシリスコ ははは。鶯が蠅に挑まれるとは！<sup>54</sup> 愚かさゆえの特権だ。行け、行け。

ピストン いえいえ、あなたと戦わねばなりません、絶対に。さもないと首になりますから。

バシリスコ 人生に疲れたのか？

ピストン いいえ。

バシリスコ それなら武器を持ってこい、片手でお前と戦ってやる、何も着けずに。

ピストン あなたのものを貸してくださいよ、手間が省けますから。

バシリスコ ヘラクレスが生きていたとしても、私の武器を使うことはできないだろう。

ピストン ジャあ、僕がまた来るまで待ってくれますか。

バシリスコ 我が名誉にかけて、わかった。

ピストン では、僕がトルコから戻ったらということで。(退場)

バシリスコ あの小さな向こう見ずの男は行ってしまったか。あいつは勇敢だが、あのように卑しい者と戦うことは騎士道に反する。ピグミーは鶴と戦わせよう<sup>55</sup>——怖いからではなく、戦うことを私は軽蔑するのだ。(退場)

## 注

- 1 悲劇の詩神。
- 2 槍は死の持つ道具。
- 3 ここでパーセダはエラスタスの求愛を受け入れている。
- 4 船のイメージが使用されている。
- 5 シリアの湾岸の港町。
- 6 ローマ教皇によって授与されるもの。
- 7 ここでエラスタスに気づく。

- 8 ピストンはエラスタスの言いつけをわざと間違えて繰り返している。
- 9 ヘクターの妻アンドロマキは彼に戦わないよう説得した。
- 10 ハプスブルク家スペインにおける騎士道の順列の最高位。
- 11 アダマントは非常に硬い鉱石で頑なな性質の比喩となる。情け深さとは対立するものであり、バシリスコの語は矛盾している。
- 12 憂鬱症は恋に落ちた人に特徴的な気質。
- 13 キケロの一節のパロディになっている。
- 14 魚形章 (ichthus) は初期キリスト教徒の信仰のシンボル。また、「ラテン語」にはローマ・カトリックの含蓄がある。
- 15 ピストンはフランス語の“sans”（「～なしに」）を理解していない（もしくは理解していないふりをしている）。
- 16 オウィディウスの『変身物語』にあるタイフォンとギリシャ神話の物語が混交している。
- 17 ウィリアム・シェイクスピアの歴史劇『ジョン王』ではこの一節がパロディされている（1 幕 1 場 244 行）。
- 18 ピストンを指す。
- 19 子供の遊び。
- 20 ルーシーナがエラスタスを誘惑しているとピストンは茶化している。
- 21 イタリアの踊り。跳躍などを含む。
- 22 尻尾に性器の意味も含めて述べている。
- 23 外科的治療。
- 24 性的な含蓄がある。
- 25 ピストンを殴ろうとしている。
- 26 運命の女神への呼びかけ。
- 27 ベルシャのこと。
- 28 ロードス島のこと。
- 29 ソクラテスの弟子。典型的なおべっか使い。
- 30 異性を見て恋に落ち、心が傷つくこと。
- 31 エラスタスのこと。
- 32 バシリスコのこと。
- 33 婚姻の神。
- 34 輝きを象徴する Aglaia、喜びを象徴する Euphrosyne、開花を象徴する Thalys のこと。
- 35 自分のこと。

- 36 buckler (「守る」、「盾」) の言葉遊び。
- 37 首飾りのこと。
- 38 四体液説の粘液 (phlegm) を指す。粘液は憂鬱症の兆候。
- 39 トロイ人を騙してトロイに木馬を運び込ませたギリシヤ人。
- 40 パーセダのこと。
- 41 本来なら「目隠しされた」ではなく「耳栓をした」になる。
- 42 “high men”、“low men”はそれぞれ大きい数と小さい数が出るように細工してあるサイコロ。ピストンは“tall men”、“little men”と言い間違えている。
- 43 ルーシーナは仮面を着けたエラスタスをファーディナンドと勘違いしている。
- 44 非常に高価なものとされている。
- 45 運命の女神のこと。
- 46 死刑囚がラテン語の死を読むことが出来れば赦免される“neck-verse”という慣習への言及。
- 47 ファーディナンドのこと。
- 48 ラテン語の句。
- 49 悪魔のこと。
- 50 諺。
- 51 以下、ピストンは手紙の文面を模倣している。
- 52 バラッド売りがニュースを歌ったことに言及している。
- 53 ギリシヤ神話の風の神。
- 54 諺。
- 55 プリニウスが言及した伝説に基づく。